

①【国際社会に生きる日本人の育成と

地域に根ざした教育の推進】

国際化が進む今日、広く国際社会に目を向け、国際平和に貢献できる人間の育成とその土台となる教育が求められている。

そのために、日本人としての自覚を深め、国や地域に対する誇りと愛着を育むとともに、多様な文化に対する理解を図り国際理解教育を推進する。

(主な事業名)

- ・ 学校教育基本構想の作成 (学)
- ・ 外国人英語指導補助員の派遣 (学)
- ・ 英語活動カリキュラム作成
- ・ 中学生による国内留学ブリティッシュヒルズ (学)
- ◎ 食育の推進 (学)
- ◎ 給食を通じた食の作法学習 (学)
- ・ 日野の郷土教育推進研究・普及 (セ)
- ・ 地域職場体験 (学)
- ・ 環境に配慮した取組み (ひのっ子エコアクション) (庶・学)

◎は評価対象事業

学・・・学校課

セ・・・教育センター

庶・・・庶務課

基本方針	国際社会に生きる日本人の育成と地域に根ざした教育の推進	19年度実績	参加者数 1,201人
担当課	学校課	事業費(円)	1,632,515
事業の名称	食育推進事業経費 (◎食育の推進、◎給食を通じた食の作法学習)		
事業の目的・将来目標			
本事業で学んだことを日々の給食を通して確実に身につくマナーとなるようにしていく。 食育の一環として食事の基礎・基本(社会性、食事の重要性、感謝の心、食文化等)を学び、マナーを身につけることにより、人間形成の一助としたい。			
事業の概要			
市立中学校全校の3学年全員を対象に給食時間等を活用して食事の基礎基本を学ぶためテーブルマナー教室を実施。和食・洋食のマナーや食事の基本マナーの講義を行い、魚(頭、骨つき)を主菜、野菜の煮物を副菜とした本格的和食膳でまとめた給食を実際に食べながら食事終了後のマナーまでを学んだ。			
事業の成果			
日本食の伝統的な食べ物である魚(頭や骨つき)が嫌われる理由の一つに「箸で上手に食べることができないから」「骨があるから」など経験がないことや、間違った箸の持ち方を正しいと勘違いしていた例などがあった。魚を食べることが成人になってからも健康な体をつくるのに必要であることやマナーを含めた自分の食事の仕方について見直すきっかけとなった。			

事業の課題					
指導に協力していただく実践女子大学と細かな日程調整が必要。また、他学年の給食と平行して実施する場合、大規模校については日程、指導にあたっての配慮や予算、社会情勢により献立作成にも配慮が必要である。					
所管部署評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	3	2	14	B
策定中の食育推進計画を前倒しする事業として実施。 食事の基礎・基本を知ることは、将来に向け健全な生活を送るために重要である。特に魚は日本の伝統的な食材であり、肉食に偏りがちな生活は生活習慣病にもつながりかねないことから、和食を中心にマナーを含めた指導は、生徒一人ひとりが食を見直すきっかけになった。					
本部評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
5	4	3	0	12	B
「食育推進計画」も策定される。学校における食育事業は学校給食がメインテーマであり、食事のマナー指導は一つの切り口に過ぎない。たとえば、給食の食べ残しと食糧問題を絡めるなど、総合的な食育推進事業を進める必要がある。					
市民評価					
必要性	効率性	達成度 到達度	付加点	合計	総合評価
4	3	3	0	10	C
食のマナーや食習慣の伝承が家庭でできなくなってしまったことは寂しい気がする。家庭や地域で担うことができないとすれば、行政で食育を進めることは、いたしかたない。今回、日野市独自の食育推進計画が策定された。平成19年度に取り組んだ食事マナー教室は、食育事業のほんの一部に過ぎない。学校給食という大きな道具を使い、教育委員会は、学校、市(産業振興課、健康課など)、農協、学校医などと連携して、食育推進計画が掲げる事業を推進してもらいたい。なお、親御さん向けの食育事業も行う必要があるのではないか。					

【総合評価】A:充実・拡大、B:維持・継続、C:見直し、D:抜本見直し、E:休止・廃止